

## 保険薬局におけるトレーシングレポート運用の現状と課題

布施 和也<sup>1)</sup>、鮎川 安祐<sup>2)</sup>、前田 守<sup>3)</sup>、長谷川 佳孝<sup>3)</sup>、月岡 良太<sup>3)</sup>、森澤 あずさ<sup>3)</sup>、大石 美也<sup>3)</sup>

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 いわき小島店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ
- 3) 株式会社アインホールディングス

【目的】2015年10月に厚生労働省が策定した「患者のための薬局ビジョン」では、患者本位の医薬分業の実現に向けて、保険薬局が地域包括ケアシステムの一翼を担うことを求めている。保険薬局がその役割を果たす上で薬薬連携は重要な意義を持ち、その手段の一つであるトレーシングレポート(TR)の積極的運用が求められている。本研究では、薬局薬剤師によるTR運用の現状把握と、課題抽出を目的とした。

【方法】当社が北関東4県(千葉、茨城、栃木、福島)で運営する薬局62店舗の薬剤師161名に、2018年5月16~31日にアンケートを実施した。主な項目は「提出経験」「TRの提出で服薬指導が充実したか(指導充実感)」「TRの提出は難しいと思うか(TR抵抗感)とその理由」とした。結果は、有意水準0.05としたカイニ乗検定で解析した。

【結果】提出経験がある薬剤師は68名(42.2%)で、TR抵抗感あり群(n=117)は29.9%(n=35)と、なし群(n=44)の75.0%(n=33)よりも有意に低かった。提出経験がある薬剤師で指導充実感があると回答した割合は、TR抵抗感あり群(n=35)では51.4%、なし群(n=33)では45.5%であり、群間に有意差はなかった。TR抵抗感がある理由からは「医師や患者への過度な気遣い」や「提出結果への過度な期待」が、TR抵抗感がない理由からは「伝えることを重要視する姿勢」が見られた。

【考察】TR提出経験のある薬局薬剤師が半数に満たなかったことから、薬局薬剤師が今まで以上にTRを用いた情報提供に取り組む必要性が示唆された。また、TR抵抗感に指導充実感は大きく影響せず、抵抗感がある理由から、薬局薬剤師が自らの果たすべき役割について認識を深める必要性が示唆された。薬薬連携では、薬局薬剤師がその役割から必要性を感じた場合はTRなどで情報提供することの重要であることを再認識する必要があると考える。

(日本薬学会第139年会(2019年3月、幕張)にて発表)